令和３（２０２１）年度　御船町立高木小学校　学校便り

高き志【こころざし】

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

No. 29（R3. 12. 15発行）文責 校長 福田雅也

落ちないりんご

平成３年９月２８日早朝、東北地方を台風１９号が襲いました。現在では「りんご台風」という別名が付けられている台風です。今回はその台風に襲われた後、被害を受けたりんご農家が思いついた起死回生のアイデアについてお伝えします。

この台風は、私たちの住む九 州に大きな被害をもたらした後、勢力を保ったまま北上し、最大瞬間風速５０メートルを越える強風で東北地方全域にわたり大きな被害を残しました。この話に出てくる農家がある青森、津軽地方もやはり大きな被害を受けました。町のいたるところで電柱が倒れ、建物が損壊し、トタン屋根が飛んでしまうほどの強烈な台風でした。

青森、津軽地方といえばりんご。台風通過後に、りんご畑を見に行った農家の方々は、皆しばらく声も出なかったそうです。収穫前のりんごが木から落ち、あたり一面が落ちたりんごでいっぱいになっていたのです。９割程のりんごが出荷できなくなりました。

「この状 況を、農家の方はどうのような方法で乗り越えたでしょうか？」…もし、このような問題を出されたらどのような回答を出されますか。普通に考えれば「落ちたりんごを集めてりんごジャムやりんごジュースにする」…このような答えになるのではないでしょうか。私自身もその答えを出した者の一人です。

ところが現実は違っていました。この危機的な状 況を切り抜けることができるかもしれない打開策が、若いりんご農園経営者の中から提案されたのです。それは、落ちたりんごをどうするかではなく、落ちていないりんごに目を向ける方法でした。５０メートル以上の暴風にも耐えた落ちていないりんごを、全国の神社で、縁起物として受験生に販売することができないかというアイデアだったのです。

まず、「落ちないりんご販売実行委員会」が組織されました。 受験シーズンに間に合わせるため、しばしば会議が開かれ、そして、「落ちないりんご」という宣伝文句で販売することが決まったそうです。値段は落ちたりんごの分を少しでもカバーできるよう、通常より高く設定されました。

明治神宮（東京）、湯島天満宮（東京）、亀戸天神社（東京）、大國魂神社（東京）、谷保天満宮（東京）、鶴岡八幡宮（神奈川）、岩津天満宮（愛知）、熱田神宮（愛知）の、計８カ所で販売された「落ちないりんご」は瞬く間に完売し、りんご農園の経営は守られたそうです。現在では、「落ちないりんご」という名の有限会社が設立され、販売が続けられています。

同じような話があります。最初の糊付き付箋紙である「ポスト・イット」の製品化についてです。アメリカの化学メーカー３Ｍのある研究員が、強 力な接着剤を開発中に、たまたま非常に弱い接着剤を作り出してしまいました。当初この弱い接着剤は用途が見つからず、「失敗の産物」と思われていたのです。しかし、後に別の研究員が、この弱い接着剤を、簡単に貼ったりはがしたりできる本の栞に応用できないかと思いついたのです。そして生まれたのが世界最初の糊付き付箋紙「ポスト・イット」だったのです。

「９割のりんごが落ちてしまった」という「事実」から、「１割のりんごが残っている」という「事実」に視点を変える。「強 力な接着剤の開発に失敗した」という「事実」から、「弱い接着剤の開発に成功した」という「事実」に視点を変える。同じ「事実」なのですが、この視点の違いが結果に大きな差を生んだのです。とても興味深く、参考になる話で、こちらまで前向きになれます。人は、ついネガティブな方に目が向いてしまうことが多いように思います。しかし、考え方を変えて視点をポジティブな方に変えることで、大きく違った結果を生むことがあると言えそうです。

視点を変えると言えば、私たち教師が授業を作るときに頭においていることがあります。それは…「子どもたちに教えなければいけないことを、子どもたちが学びたいと思えることに変える」ということです。これもまた、教師側から子ども側に視点を変えることから生まれる、教師にとってとても大切な考え方です。